

表 1-1 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ (機械工学科) (令和 4 年度専攻科入学者用)

学習・教育到達目標 記号	カリキュラムポリシーと 学習・教育到達目標との 関係	分野別要件(総合履 修・新領域の「基礎 工学の知識・能力」)	学科第1学年(H29年度)		学科第2学年(H30年度)		学科第3学年(H31年度)		学科第4学年(R02年度)		生産システム・環境工学プログラム ^{※1}				分野別要件(総合履 修・新領域の「基礎 工学の知識・能力」)
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	第1学期	第2学期	
(A)	学習・教育到達目標 (A)~(C) 人類の福祉と地球環 境に配慮できる人間 性・倫理観をもった 技術者の育成	(学科学科) 1. 感性豊かな技術 者としての能力育成 2. 倫理観など「技術 者」が分野共通で備 えるべき基礎的能 力」を育成する授業 を配置します。	世界史 現代社会	化学 生命環境基礎 音楽 美術	日本史 現代倫理	化学			文学(O)	経済学(O) 哲学(O) 歴史学(O)	科学哲学(O)	地域文化論			
(B)	学習・教育到達目標 (B) すぐれたコミュニケ ーション能力と国際 的視野をもち、多岐 な領域を理解できる 技術者の育成	(専攻科) 1. 感性豊かな技術 者としての能力育成 2. 倫理観など「技術 者」が分野共通で備 えるべき基礎的能 力」を育成する授業 を配置します。	英語 I A 英語 I B 英語 I C 英語多読	英語 II A 英語 II B 英語 II C 英語多読	英語 III A 英語 III B 英語 III C 英語多読	英語 IV A 英語 IV B 英語 IV C 英語多読	英語演習 コミュニケーション特講(O)	英語 I(O) 英語 II(O) 英語 III(O) 英語 IV(O)	英語特講(O)	英語特講(O) 英語特講(O) 英語特講(O) 英語特講(O)	総合英語(O)	日本語文化(O) 日本文学(O)	英米文化(O)	英米文化(O)	英米文化(O)
(C)	学習・教育到達目標 (C) 早期技術者教育の特 長を生かし、科学と 技術の基礎を身に 付け、健全で創造性 豊かな技術者の育 成	(学科学科) 3. 人類の未来をきり ひらく創造的技術者 としての能力育成 4. 協働・課題発見・ 解決力、及び未来志向 で主体的に学び続ける 人間力など「技術者 」が備えるべき分野 横断的能力」を育成 する授業を配置し ます。	基礎数学A 基礎数学B 基礎数学C 微分積分 I 微分積分 II 物理B 物理C 初等力学A 初等力学B	基礎数学C 代数学 物理A 微分積分 I 微分積分 II 確率 物理C 初等力学A 初等力学B	応用数学 I A(O) 統計学(O) 制御工学 A(O) 材料科学 I(O) 物理学 I A(O)	応用数学 I B(O) 統計学(O) 制御工学 B(O) 材料科学 II(O) 物理学 I B(O)	応用数学 II A(O) 応用数学 II B(O) 物理学 II A(O) 物理学 II B(O) 数値解析法(O)	応用数学 II A(O) 応用数学 II B(O) 物理学 II A(O) 物理学 II B(O) 数値解析法(O)	応用解析(O) 応用代数学(O) 量子物理学(O) 物理工学(O)	応用解析(O) 応用代数学(O) 量子物理学(O) 物理工学(O)	応用解析(O) 応用代数学(O) 量子物理学(O) 物理工学(O)	応用解析(O) 応用代数学(O) 量子物理学(O) 物理工学(O)	応用解析(O) 応用代数学(O) 量子物理学(O) 物理工学(O)	応用解析(O) 応用代数学(O) 量子物理学(O) 物理工学(O)	応用解析(O) 応用代数学(O) 量子物理学(O) 物理工学(O)
(D)	学習・教育到達目標 (D) 工学の専門知識と のつくりのスキルを かねて、情報技術 を駆使できる技術 者の育成	(学科学科) 2. 実践力のある技 術者としての能力育 成 3. 専門的知識、もの づくりスキルなど「技 術者」が備えるべき 分野横断的能力」を 育成する授業を配 置します。	機械工作法 設計製図 機械工学実験実習 I	設計製図 電子回路 設計製図 機械学 機械要素 機械工学実験実習 II	計測工学 電子回路 設計製図 機械学 機械要素 機械工学実験実習 III	電子回路 A(O) 電子回路 B(O) 設計製図(O) 機械設計学(O)	電子回路 A(O) 電子回路 B(O) 設計製図(O) 機械設計学(O)	電子回路 A(O) 電子回路 B(O) 設計製図(O) 機械設計学(O)	材料力学 I A(O) 熱力学 A(O) 流体力学 I A(O)	材料力学 I B(O) 熱力学 B(O) 流体力学 I B(O)	材料力学 II(O) 流体力学 II(O) 機械力学(O) メカトロニクス(O)	材料力学 II(O) 流体力学 II(O) 機械力学(O) メカトロニクス(O)	材料力学 II(O) 流体力学 II(O) 機械力学(O) メカトロニクス(O)	材料力学 II(O) 流体力学 II(O) 機械力学(O) メカトロニクス(O)	材料力学 II(O) 流体力学 II(O) 機械力学(O) メカトロニクス(O)
(E)	学習・教育到達目標 (E)~(G) 多面的思考力と計画 力をもつ、課題の解 決に技術の創発を 実行できる技術者 の育成	(学科学科) 3. 人類の未来をきり ひらく創造的技術者 としての能力育成 4. 協働・課題発見・ 解決力、及び未来志向 で主体的に学び続け る人間力など「技術 者」が備えるべき分 野横断的能力」を育 成する授業を配置 します。	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作	総合製作 総合製作 総合製作 総合製作
(F)	学習・教育到達目標 (F) 地域の産業と社会に 連携し、時代の要 請に応えられる実践 力のある技術者の 育成	(専攻科) 2. 実践力のある技 術者としての能力育 成 3. 専門的知識、もの づくりスキルなど「技 術者」が備えるべき 分野横断的能力」を 育成する授業を配 置します。	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)	インターンシップ I(O) インターンシップ II(O)
(G)	学習・教育到達目標 (G) 自発的学習能力を 身につけ、継続的に 自己啓発できる技 術者の育成	(専攻科) 3. 人類の未来をきり ひらく創造的技術者 としての能力育成 4. 協働・課題発見・ 解決力、及び未来志向 で主体的に学び続け る人間力など「技術 者」が備えるべき分 野横断的能力」を育 成する授業を配置 します。	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習	自己啓発型課題学習 自己啓発型課題学習

カリキュラムポリシー

学科学科
機械工学科は、ディプロマポリシー(学位授与の方針)に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を織り交ぜ、学年が上がるにつれ専門科目を多く学ぶ「さび型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

専攻科
電子機械システム工学専攻は、ディプロマポリシー(学位授与の方針)に掲げた知識・技能などを高めた、学士(工学)の学位が取得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

講義: 30.0 単位	演習: 3.0 単位	実験実習: 5.0 単位	講義: 26.0 単位	演習: 4.0 単位	実験実習: 5.0 単位	講義: 24.0 単位	演習: 3.0 単位	実験実習: 9.0 単位	講義: 36.0 単位	演習: 4.0 単位	実験実習: 7.0 単位	講義: 42.5 単位	演習: 0.0 単位	実験実習: 23.0 単位	講義: 50.0 単位	演習: 2.0 単位	実験実習: 20.0 単位	講義: 20.0 単位	演習: 4.0 単位	実験実習: 10.0 単位
-------------	------------	--------------	-------------	------------	--------------	-------------	------------	--------------	-------------	------------	--------------	-------------	------------	---------------	-------------	------------	---------------	-------------	------------	---------------

科目名 = 講義 科目名 = 演習 科目名 = 実験・実習

専攻科の科目において、◎印の科目は、目標を達成するために「主体的」に関与する科目である。

表1-2 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電気電子システム工学科) (令和4年度専攻科入学用)

学習・教育到達目標 記号 大項目	カリキュラムポリシー と学習・教育到達目標 との関係	分野別要件(融合種 合・新領域の「基礎工 学」の知識・能力)	学科第1学年(H29年度)		学科第2学年(H30年度)		学科第3学年(H31年度)		学科第4学年(R02年度)		生産システム・理工工学プログラム ^{※1}				専攻科第1学年(R04年度)				専攻科第2学年(R05年度)				分野別要件(融合種 合・新領域の「基礎工 学」の知識・能力)					
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期								
(A) 人間の福祉と地球 環境に配慮できる人間 性と倫理観をもった 技術者の育成	学習・教育到達目標 (A)～(C)		世界史	現代社会	日本史	現代倫理	経済学(O)	哲学(O)	歴史学(O)	文学(O)	科学哲学(◎)	地域文化論																
			化学	生命環境基礎	音楽	美術	英語(VA)(◎)	英語(VB)(◎)	英語(VC)(◎)		英語(VD)(◎)													英語(V)(◎)	英語特講(◎)	英米文化論(◎)		
(B) すぐれたコミュニケ ーション能力と国際的 視野をもち、多様な 環境を超越できる技 術者の育成	学習・教育到達目標 (B)		英語I A	英語I B	英語I C	英語I 多読	英語II A	英語II B	英語II C	英語II 多読	英語III A	英語III B	英語III C	英語III 多読	英語IV A	英語IV B	英語IV C	英語IV 多読	英語特講(◎)	英語特講(◎)	英語特講(◎)	英語特講(◎)	英語特講(◎)	英語特講(◎)	英語特講(◎)			
			基礎数学A	基礎数学B	基礎数学C	微分積分I	微分積分II	応用数学IA(◎)	統計学(◎)	応用数学IB(◎)	応用数学IJA(◎)	応用数学IJB(◎)	応用数学IIA(◎)	応用数学IIB(◎)	応用数学IIJA(◎)	応用数学IIJB(◎)	応用数学IIJA(◎)	応用数学IIJB(◎)	応用数学IIJA(◎)	応用数学IIJB(◎)	応用数学IIJA(◎)	応用数学IIJB(◎)	応用数学IIJA(◎)	応用数学IIJB(◎)	応用数学IIJA(◎)	応用数学IIJB(◎)		
(C) 基礎技術者教育の 基盤を身につけ、 社会で創造的 な技術者の育成	学習・教育到達目標 (C)	①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力学系 ⑤社会技術系	基礎情報処理	プログラミング	プログラミング演習	応用プログラミング(◎)	システム制御工学	電気電子材料I(◎)	電気電子材料II(◎)	電気電子材料I(◎)	電気電子材料II(◎)	電気電子材料I(◎)	電気電子材料II(◎)	電気電子材料I(◎)	電気電子材料II(◎)	電気電子材料I(◎)	電気電子材料II(◎)	電気電子材料I(◎)	電気電子材料II(◎)	電気電子材料I(◎)	電気電子材料II(◎)	電気電子材料I(◎)	電気電子材料II(◎)	電気電子材料I(◎)	電気電子材料II(◎)	電気電子材料I(◎)	電気電子材料II(◎)	
			物理A	物理B	物理C	物理学IA(◎)	物理学IB(◎)	物理学IIA(◎)	物理学IIB(◎)	物理学IIIA(◎)	物理学IIIB(◎)	物理学IIIA(◎)	物理学IIIB(◎)	物理学IIIA(◎)	物理学IIIB(◎)	物理学IIIA(◎)	物理学IIIB(◎)	物理学IIIA(◎)	物理学IIIB(◎)	物理学IIIA(◎)	物理学IIIB(◎)	物理学IIIA(◎)	物理学IIIB(◎)	物理学IIIA(◎)	物理学IIIB(◎)	物理学IIIA(◎)	物理学IIIB(◎)	
(D) 工学の専門知識と ものづくりのスキルを ねらえ、情報技術を 駆使できる技術者の 育成	学習・教育到達目標 (D)		デジタル回路	論理回路	基礎電磁気学	電気電子理論演習	電気回路I	電気回路II	電子回路I	電子回路II	電子回路III	電子回路IV	電子回路V	電子回路VI	電子回路VII	電子回路VIII	電子回路IX	電子回路X	電子回路XI	電子回路XII	電子回路XIII	電子回路XIV	電子回路XV	電子回路XVI	電子回路XVII	電子回路XVIII	電子回路XIX	電子回路XX
			電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路	電子回路
(E) 多面的思考力と計 画力をもた、課題の解 決と技術の開発を果 行できる技術者の育 成	学習・教育到達目標 (E)～(G)		電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II
			電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II	電気電子システム工学実験I	電気電子システム工学実験II
(F) 地域の産業と社会に 貢献し、向いの実情 に応えられる実践力 のある技術者の育成	学習・教育到達目標 (F)～(G)		技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論
			技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論	技術科学フロンティア概論
(G) 自発的学習能力を 身につけ、継続的に自 己啓発できる技術者 の育成	学習・教育到達目標 (G)		自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修
			自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修	自己啓発型課題学修

カリキュラムポリシー
 学科
 電気電子システム工学科は、ディプロマポリシー(学位授与の方針)に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を履修させ、学年が上がるにつれて専門科目を多く学ぶ「くび型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その詳細は、学習成果の到達目標に対する達成度により行います。

専攻科
 電子機械システム工学専攻は、ディプロマポリシー(学位授与の方針)に掲げた知識・技能などを高め、学士(工学)の学位が取得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その詳細は、学習成果の到達目標に対する達成度により行います。

講義: 31.0 単位
 演習: 2.0 単位
 実験実習: 4.0 単位

講義: 29.0 単位
 演習: 1.0 単位
 実験実習: 5.0 単位

講義: 25.0 単位
 演習: 0.0 単位
 実験実習: 9.0 単位

講義: 33.0 単位
 演習: 0.0 単位
 実験実習: 9.0 単位

講義: 46.0 単位
 演習: 0.0 単位
 実験実習: 23.0 単位

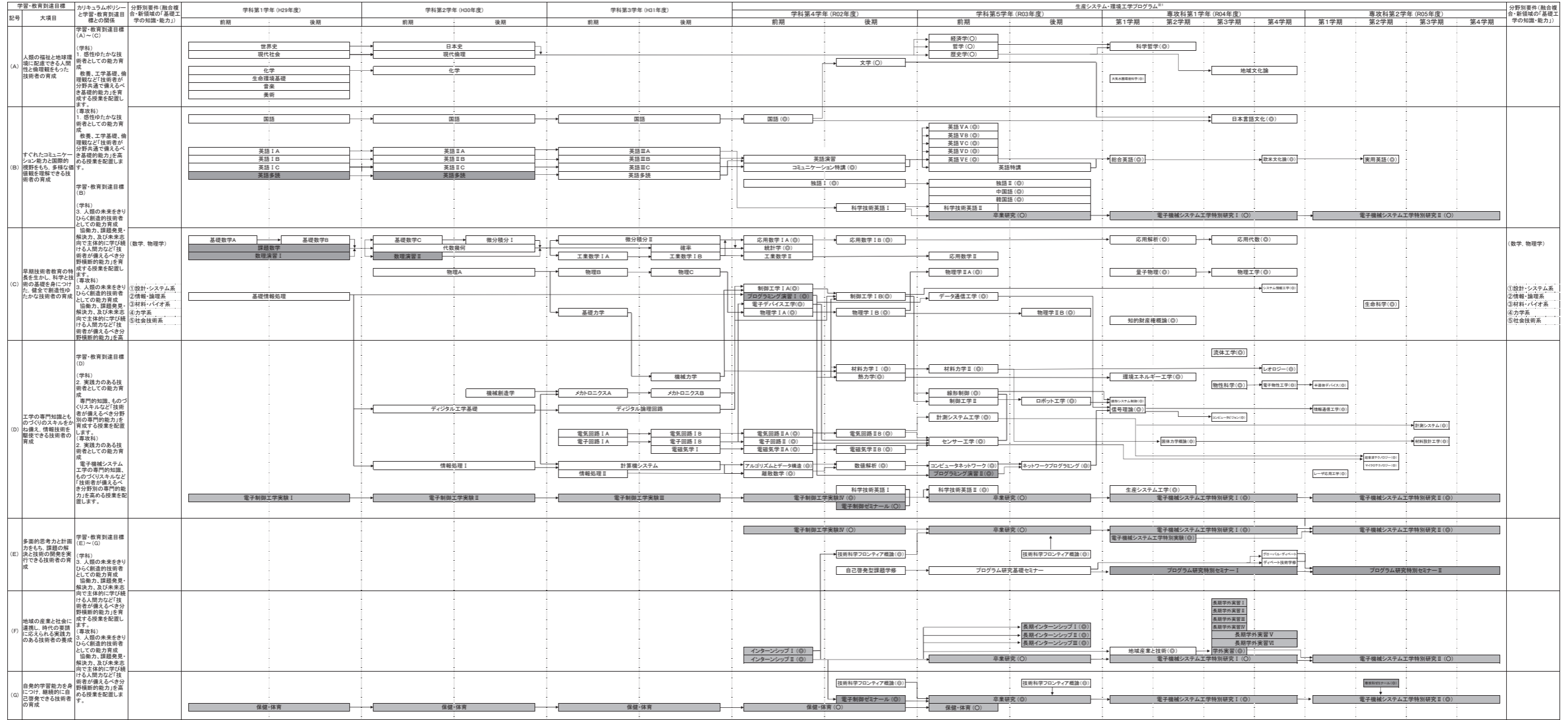
講義: 50.0 単位
 演習: 2.0 単位
 実験実習: 20.0 単位

講義: 20.0 単位
 演習: 0.0 単位
 実験実習: 10.0 単位

科目名 = 講義
 科目名 = 演習
 科目名 = 実験・実習

専攻科の科目において、◎印の科目は、目標を達成するために「主体的」に履修する科目である。

表 1 - 3 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電子制御工学科) (令和 4 年度専攻科入学者用)



カリキュラムポリシー

学

電子制御工学科は、ディプロマポリシー(学位授与の方針)に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を履修させ、学年が上がるにつれ専門科目を多く学ぶ「きび型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

専攻科

電子機械システム工学専攻は、ディプロマポリシー(学位授与の方針)に掲げた知識・技能などを高め、学士(工学)の学位が取得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

講義: 29.0 単位
演習: 3.0 単位
実験実習: 5.0 単位

講義: 27.0 単位
演習: 2.0 単位
実験実習: 5.0 単位

講義: 30.0 単位
演習: 2.0 単位
実験実習: 6.0 単位

講義: 39.0 単位
演習: 1.0 単位
実験実習: 8.0 単位

講義: 45.0 単位
演習: 1.0 単位
実験実習: 23.0 単位

講義: 50.0 単位
演習: 1.0 単位
実験実習: 20.0 単位

講義: 20.0 単位
演習: 2.0 単位
実験実習: 10.0 単位

科目名 = 講義 科目名 = 演習 科目名 = 実験・実習

専攻科の科目において、◎印の科目は、目標を達成するために「主体的」に関与する科目である。

表 1-4 (M) 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ (物質工学科, 材料工学コース) (令和 4 年度専攻科入学者用)

学習・教育到達目標 記号	大項目	カリキュラムポリシー と学習・教育到達目標との関係	分野別要件(総合型 領域の「基礎工 学の知識・能力」)	学科第1学年 (H29年度)		学科第2学年 (H30年度)		学科第3学年 (H31年度)		学科第4学年 (R02年度)		生産システム・環境工学プログラム ^{※1}				専攻科第1学年 (R04年度)				専攻科第2学年 (R05年度)				分野別要件(総合型 領域の「基礎工 学の知識・能力」)		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期					
(A)	人間の福祉と地球環境に配慮できる人間性と倫理観をもった技術者の育成	学習・教育到達目標(A)~(C) (学科) ① 総合的な技術者としての能力育成 ② 倫理観、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。 (専攻科) 1. 感性豊かな技術者としての能力育成 ② 倫理観、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。	①総合型領域 ②基礎工学 ③材料・バイオ系	世界史	現代社会	日本史	現代倫理				経済学(O) 哲学(O) 歴史学(O)	科学哲学(O)														
				化学	生命環境基礎 音楽	化学		文学			英語VA(O) 英語VB(O) 英語VC(O) 英語VD(O) 英語VE(O)	英語特講	総合英語(O)	日本文化論(O)												
(B)	すぐれたコミュニケーション能力と国際的視野をもった、多様な価値観を尊重できる技術者の育成	学習・教育到達目標(B) (学科) ③ 人間の未来をきりひらく創造的技術者としての能力育成 (専攻科) 1. 感性豊かな技術者としての能力育成 ② 倫理観、工学基礎、倫理観など「技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。	④力系系 ⑤社会技術系	英語IA	英語IB	英語IC	英語多読	英語IIA	英語IIB	英語IIC	英語多読	英語I(O)	英語II(O) 英語III(O) 英語IV(O) 卒業研究(O)													
				基礎数学A	基礎数学B	基礎数学C	微分積分I	微分積分II	応用数学IA(O)	応用数学IB(O)	応用数学IIA(O)	応用数学IIB(O)	応用統計(O)	応用統計(O)	応用統計(O)	応用統計(O)	応用統計(O)	応用統計(O)	応用統計(O)	応用統計(O)	応用統計(O)	応用統計(O)	応用統計(O)	応用統計(O)	応用統計(O)	応用統計(O)
(C)	早期技術者教育の特色を身に付けた、科学的基礎を身につけた、健全で創造的・主体的に学び続ける人間力など「技術者が備えるべき分野横断的能力」を育成する授業を配置します。	①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力系系 ⑤社会技術系	⑥力系系 ⑦社会技術系	基礎情報処理	情報処理I	基礎生物学	基礎生物学	生物化学I	生物化学II(O)	情報処理II	物理IIA(O)	物理IIB(O)	量子物理(O)	物理工学(O)												
				基礎情報処理	情報処理I	基礎生物学	生物化学I	生物化学II(O)	情報処理II	物理IIA(O)	物理IIB(O)	量子物理(O)	物理工学(O)													
(D)	工学の専門知識とものづくりのスキルを兼ね備える、情報技術を駆使できる技術者の育成	①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力系系 ⑤社会技術系	⑥力系系 ⑦社会技術系	分析化学	有機化学I	物理化学I	有機化学II	物理化学II(O)	材料物理化学(O)	有機プロセス化学(O)	高分子物性(O)	化学工学I(O)	反応工学(O)	食品化学(O) 食品製造工学(O) 品質管理(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	
				基礎化学演習I	基礎化学演習II	分析化学演習	物理化学II(O)	材料物理化学(O)	有機プロセス化学(O)	高分子物性(O)	化学工学I(O)	反応工学(O)	食品化学(O) 食品製造工学(O) 品質管理(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)	食品工学(O)
(E)	多面的な思考力と計画力をもった、課題の解決と技術の開発を実行できる技術者の育成	①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力系系 ⑤社会技術系	⑥力系系 ⑦社会技術系	物質工学概論	物質工学実験(化学) レポート作成法	物質工学実験(分析)	物質工学実験(有機・生・化)	物質工学実験(物化) 創造実験(O)	材料化学実験(O)	物質工学実験(化工) 創造実験(O)	卒業研究(O)	物質工学特別研究I(O)	物質工学特別研究II(O)	物質工学特別研究III(O)	物質工学特別研究IV(O)	物質工学特別研究V(O)	物質工学特別研究VI(O)	物質工学特別研究VII(O)	物質工学特別研究VIII(O)	物質工学特別研究IX(O)	物質工学特別研究X(O)	物質工学特別研究XI(O)	物質工学特別研究XII(O)	物質工学特別研究XIII(O)	物質工学特別研究XIV(O)	
				物質工学概論	物質工学実験(化学) レポート作成法	物質工学実験(分析)	物質工学実験(有機・生・化)	物質工学実験(物化) 創造実験(O)	材料化学実験(O)	物質工学実験(化工) 創造実験(O)	卒業研究(O)	物質工学特別研究I(O)	物質工学特別研究II(O)	物質工学特別研究III(O)	物質工学特別研究IV(O)	物質工学特別研究V(O)	物質工学特別研究VI(O)	物質工学特別研究VII(O)	物質工学特別研究VIII(O)	物質工学特別研究IX(O)	物質工学特別研究X(O)	物質工学特別研究XI(O)	物質工学特別研究XII(O)	物質工学特別研究XIII(O)	物質工学特別研究XIV(O)	物質工学特別研究XV(O)
(F)	地域の産業と社会に連携し、時代の要請に応えられる実務能力のある技術者の育成	①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力系系 ⑤社会技術系	⑥力系系 ⑦社会技術系	英語インテンシブI(O)	英語インテンシブII(O)	英語インテンシブIII(O)	英語インテンシブIV(O)	英語インテンシブV(O)	英語インテンシブVI(O)	英語インテンシブVII(O)	英語インテンシブVIII(O)	英語インテンシブIX(O)	英語インテンシブX(O)	英語インテンシブXI(O)	英語インテンシブXII(O)	英語インテンシブXIII(O)	英語インテンシブXIV(O)	英語インテンシブXV(O)	英語インテンシブXVI(O)	英語インテンシブXVII(O)	英語インテンシブXVIII(O)	英語インテンシブXIX(O)	英語インテンシブXX(O)	英語インテンシブXXI(O)	英語インテンシブXXII(O)	
				英語インテンシブI(O)	英語インテンシブII(O)	英語インテンシブIII(O)	英語インテンシブIV(O)	英語インテンシブV(O)	英語インテンシブVI(O)	英語インテンシブVII(O)	英語インテンシブVIII(O)	英語インテンシブIX(O)	英語インテンシブX(O)	英語インテンシブXI(O)	英語インテンシブXII(O)	英語インテンシブXIII(O)	英語インテンシブXIV(O)	英語インテンシブXV(O)	英語インテンシブXVI(O)	英語インテンシブXVII(O)	英語インテンシブXVIII(O)	英語インテンシブXIX(O)	英語インテンシブXX(O)	英語インテンシブXXI(O)	英語インテンシブXXII(O)	英語インテンシブXXIII(O)
(G)	自発的な学習能力を身につけ、継続的に自己啓発できる技術者の育成	①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力系系 ⑤社会技術系	⑥力系系 ⑦社会技術系	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	
				健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育

カリキュラムポリシー

学科

物質工学科は、ディプロマポリシー(学位授与の方針)に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を履修させ、学年が上がると専門科目を多く学ぶ「少学多修」型の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実習、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学習成果の到達目標に対する達成度により行います。

専攻科

物質工学専攻は、ディプロマポリシー(学位授与の方針)に掲げた知識・技能などを高め、学士(工学)の学位が取得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実習、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学習成果の到達目標に対する達成度により行います。

講義: 29.0 単位
演習: 5.0 単位
実習/実習: 3.0 単位

講義: 29.0 単位
演習: 1.0 単位
実習/実習: 4.0 単位

講義: 25.0 単位
演習: 3.0 単位
実習/実習: 8.0 単位

講義: 33.0 単位
演習: 0.0 単位
実習/実習: 12.0 単位

講義: 44.0 単位
演習: 2.0 単位
実習/実習: 25.0 単位

講義: 42.0 単位
演習: 2.0 単位
実習/実習: 20.0 単位

講義: 24.0 単位
演習: 4.0 単位
実習/実習: 10.0 単位

科目名 = 講義

科目名 = 演習

科目名 = 実習・実習

専攻科の科目において、◎印の科目は、目標を達成するために「主体的」に開講する科目である。

表1-4(B) 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ (物質工学科, 生物応用コース) (令和4年度専攻科入学者用)

学習・教育到達目標 記号	カリキュラムポリシー と学習・教育到達目標との関係	分野別要件(融合複合領域の「基礎工学」の知識・能力)	学科第1学年(H29年度)		学科第2学年(H30年度)		学科第3学年(H31年度)		学科第4学年(R02年度)		生産システム・環境工学プログラム				専攻科第1学年(R04年度)				専攻科第2学年(R05年度)				分野別要件(融合複合領域の「基礎工学」の知識・能力)
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期			
(A)	人間の福祉と地球環境に配慮できる人間性と倫理観をもった技術者の育成	(学修) 1. 感性豊かな技術者としての能力育成 2. 倫理観が技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力を育成する授業を配置します。	世界史 現代社会	化学 生命環境基礎 音楽 美術	日本史 現代倫理	化学	経済学(O) 哲学(O) 歴史学(O)	文学(O)	科学哲学(◎)	地球文化論													
(B)	すぐれたコミュニケーション能力と国際的視野をもち、多様な文化を理解できる技術者の育成	(専攻科) 1. 感性豊かな技術者としての能力育成 2. 倫理観が技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力を育成する授業を配置します。	英語 I A 英語 I B 英語 I C 英語多読	英語 II A 英語 II B 英語 II C 英語多読	英語 III A 英語 III B 英語 III C 英語多読	英語 IV A 英語 IV B 英語 IV C 英語多読	英語特講(◎) 英語 I(◎) 英語 II(◎) 英語 III(◎) 英語 IV(◎) 英語 V(◎)	英語特講(◎) 英語 I(◎) 英語 II(◎) 英語 III(◎) 英語 IV(◎) 英語 V(◎)	総合英語(◎)	日本語文化(◎)	日本語文化(◎)												
(C)	基礎技術教育の長を生かし、科学と技術の基礎を身につけた、健全で創造的な技術者の育成	(学修) 3. 人間の未来を切りひらく創造的技術者としての能力育成 ①能力・課題発見・解決力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力などが「技術者が備えるべき分野横断的能力」を育成する授業を配置します。 ②設計・システム系 ③情報・論理系 ④材料・バイオ系 ⑤社会技術系	基礎数学A 基礎数学B 課題数学	基礎数学C 代数学I	微分積分I 線形代数	微分積分II 線形代数	応用数学 I A(◎) 統計学(◎)	応用数学 I B(◎) 統計学(◎)	応用数学 II A(◎) 物理学 II A(◎) 化学システム制御(◎)	応用数学 II B(◎) 物理学 II B(◎)	応用解析(◎) 量子物理学(◎)	応用代数学(◎)	物理工学特別研究 I	物理工学特別研究 II									
(D)	工学の専門知識とものづくりのスキルを兼ね備え、情報技術を駆使できる技術者の育成	(学修) 2. 実践力のある技術者としての能力育成 ①専門的知識、ものづくりスキルなどが「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を配置します。 ②実践力のある技術者としての能力育成 ③物質工学の専門的知識、ものづくりスキルなどが「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を高める授業を配置します。	基礎化学演習 I 物質工学概論 物質工学実験(化学)レポート作成法	基礎化学演習 II 分析化学演習 物質工学実験(分析)	無機化学 I 物理化学 I 有機化学 I 物理化学演習	無機化学 II 物理化学 II 有機化学 II 高分子化学(◎)	無機化学 I(◎) 無機化学 II(◎) 物理化学 I(◎) 有機化学 I(◎) 高分子化学(◎)	無機化学 I(◎) 無機化学 II(◎) 物理化学 I(◎) 有機化学 I(◎) 高分子化学(◎)	化学工学 I(◎) 分子生物学(◎) 科学技術英語 I	化学工学 II(◎) 高分子工学(◎) 食品化学(◎) 食品製造工学(◎) 品質管理(◎)	食品工学(◎) 食品工学(◎) 食品工学(◎) 食品工学(◎)	食品工学(◎) 食品工学(◎) 食品工学(◎) 食品工学(◎)	物質工学特別研究 I(◎)	物質工学特別研究 II(◎)									
(E)	多面的思考力と計画力を持ち、課題の解決と技術の開発を実行できる技術者の育成	(学修) 3. 人間の未来を切りひらく創造的技術者としての能力育成 ①能力・課題発見・解決力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力などが「技術者が備えるべき分野横断的能力」を育成する授業を配置します。	技術科学フロンティア概論(◎) 自己発見型課題学習	技術科学フロンティア概論(◎) 自己発見型課題学習	技術科学フロンティア概論(◎) 自己発見型課題学習	技術科学フロンティア概論(◎) 自己発見型課題学習	技術科学フロンティア概論(◎) 自己発見型課題学習	技術科学フロンティア概論(◎) 自己発見型課題学習	技術科学フロンティア概論(◎) 自己発見型課題学習	技術科学フロンティア概論(◎) 自己発見型課題学習	技術科学フロンティア概論(◎) 自己発見型課題学習	技術科学フロンティア概論(◎) 自己発見型課題学習	技術科学フロンティア概論(◎) 自己発見型課題学習	技術科学フロンティア概論(◎) 自己発見型課題学習									
(F)	地域の産業と社会に連携し、時代の要請に応えられる実践力のある技術者の育成	(専攻科) 2. 実践力のある技術者としての能力育成 ①専門的知識、ものづくりスキルなどが「技術者が備えるべき分野別の専門的能力」を育成する授業を配置します。	長期インターンシップ I(◎) 長期インターンシップ II(◎) 長期インターンシップ III(◎)	長期インターンシップ I(◎) 長期インターンシップ II(◎) 長期インターンシップ III(◎)	長期インターンシップ I(◎) 長期インターンシップ II(◎) 長期インターンシップ III(◎)	長期インターンシップ I(◎) 長期インターンシップ II(◎) 長期インターンシップ III(◎)	長期インターンシップ I(◎) 長期インターンシップ II(◎) 長期インターンシップ III(◎)	長期インターンシップ I(◎) 長期インターンシップ II(◎) 長期インターンシップ III(◎)	長期インターンシップ I(◎) 長期インターンシップ II(◎) 長期インターンシップ III(◎)	長期インターンシップ I(◎) 長期インターンシップ II(◎) 長期インターンシップ III(◎)	長期インターンシップ I(◎) 長期インターンシップ II(◎) 長期インターンシップ III(◎)	長期インターンシップ I(◎) 長期インターンシップ II(◎) 長期インターンシップ III(◎)	長期インターンシップ I(◎) 長期インターンシップ II(◎) 長期インターンシップ III(◎)	長期インターンシップ I(◎) 長期インターンシップ II(◎) 長期インターンシップ III(◎)									
(G)	自発的学習能力を身につけ、継続的に自己啓発できる技術者の育成	(学修) 3. 人間の未来を切りひらく創造的技術者としての能力育成 ①能力・課題発見・解決力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力などが「技術者が備えるべき分野横断的能力」を育成する授業を配置します。	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育									

カリキュラムポリシー
 学科
 物質工学科は、ディプロマポリシー(学位授与の方針)に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を履修させ、学年が上がるにつれ専門科目を多く学ぶ「くまび型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学習成果の到達目標に対する達成度により行います。
 専攻科
 物質工学専攻は、ディプロマポリシー(学位授与の方針)に掲げた知識・技能などを高め、学士(工学)の学位が取得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学習成果の到達目標に対する達成度により行います。

講義: 29.0 単位
 演習: 5.0 単位
 実験実習: 3.0 単位

講義: 26.0 単位
 演習: 1.0 単位
 実験実習: 4.0 単位

講義: 25.0 単位
 演習: 3.0 単位
 実験実習: 8.0 単位

講義: 33.0 単位
 演習: 0.0 単位
 実験実習: 12.0 単位

講義: 44.0 単位
 演習: 0.0 単位
 実験実習: 25.0 単位

講義: 42.0 単位
 演習: 2.0 単位
 実験実習: 10.0 単位

講義: 24.0 単位
 演習: 2.0 単位
 実験実習: 10.0 単位

科目名 = 講義
 科目名 = 演習
 科目名 = 実験・実習

専攻科の科目において、◎印の科目は、目標を達成するために「主体的」に関与する科目である。

表1-5 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ (環境都市工学科) (令和4年度専攻科入学者用)

学習・教育到達目標		カリキュラムポリシー と学習・教育到達目標との関係	分野別要件(総合複 合・領域の「基礎工 学の知識・能力」)	学科第1学年(H28年度)		学科第2学年(H30年度)		学科第3学年(H31年度)		学科第4学年(R02年度)		学科第5学年(R03年度)		専攻科第1学年(R04年度)				専攻科第2学年(R05年度)			
記号	大項目			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期
(A)	人間の環境と地球環境に配慮できる人間性と倫理観をもった技術者の育成	学習・教育到達目標(A)~(C) (学科) 1. 適切な技術者としての能力育成 2. 環境にやさしい技術者の育成 3. 倫理観など「技術者が分業を通じて果たすべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。	世界史 現代社会 化学 生命環境基礎 音楽	日本語 現代倫理 化学 基礎環境工学					経済学(O) 哲学(O) 歴史学(O) 文学(O)	科学哲学(S)			科学哲学(S)	地域文化論							
(B)	すぐれたコミュニケーション能力と協働的探究力を、多様な価値観を醸成できる技術者の育成	学習・教育到達目標(B) (学科) 1. 適切な技術者としての能力育成 2. 倫理観など「技術者が分業を通じて果たすべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。	英語 I A 英語 I B 英語 I C 英語多読	英語 II A 英語 II B 英語 II C 英語多読	英語 III A 英語 III B 英語 III C 英語多読	英語 III A 英語 III B 英語 III C 英語多読	英語 III A 英語 III B 英語 III C 英語多読	英語 III A 英語 III B 英語 III C 英語多読	英語 III A 英語 III B 英語 III C 英語多読 コミュニケーション特選(S)	英語特選(S) 英語 VA(S) 英語 VB(S) 英語 VC(S) 英語 VD(S) 英語 VE(S)	英語特選(S) 英語 VA(S) 英語 VB(S) 英語 VC(S) 英語 VD(S) 英語 VE(S)	英語特選(S) 英語 VA(S) 英語 VB(S) 英語 VC(S) 英語 VD(S) 英語 VE(S)	英語特選(S) 英語 VA(S) 英語 VB(S) 英語 VC(S) 英語 VD(S) 英語 VE(S)	英語特選(S) 英語 VA(S) 英語 VB(S) 英語 VC(S) 英語 VD(S) 英語 VE(S)	英語特選(S) 英語 VA(S) 英語 VB(S) 英語 VC(S) 英語 VD(S) 英語 VE(S)	英語特選(S) 英語 VA(S) 英語 VB(S) 英語 VC(S) 英語 VD(S) 英語 VE(S)	英語特選(S) 英語 VA(S) 英語 VB(S) 英語 VC(S) 英語 VD(S) 英語 VE(S)	英語特選(S) 英語 VA(S) 英語 VB(S) 英語 VC(S) 英語 VD(S) 英語 VE(S)	英語特選(S) 英語 VA(S) 英語 VB(S) 英語 VC(S) 英語 VD(S) 英語 VE(S)	英語特選(S) 英語 VA(S) 英語 VB(S) 英語 VC(S) 英語 VD(S) 英語 VE(S)	
(C)	前期技術者教育の特色を身に付けた「基礎能力」を醸成する技術者の育成	学習・教育到達目標(C) (学科) 1. 基礎能力の育成 2. 問題発見・解決力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「技術者が分業を通じて果たすべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。	基礎数学A 基礎数学B 基礎情報処理	基礎数学C 代数学 微分積分 I 情報処理 I	微分積分 II 線形代数 確率 構造設計 I	微分積分 II 線形代数 確率 構造設計 I	微分積分 II 線形代数 確率 構造設計 I	微分積分 II 線形代数 確率 構造設計 I	応用数学 I A(S) 統計学(S) 衛生工学(S) 物理学 I A(S) 物理学 I B(S) 構造力学 I A(S) 構造力学 I B(S)	応用数学 II A(S) 応用数学 II B(S) 物理学 II A(S) 物理学 II B(S) 情報処理 II(S) 物理工学 I(S) 物理工学 II(S)	応用数学 II A(S) 応用数学 II B(S) 物理学 II A(S) 物理学 II B(S) 情報処理 II(S) 物理工学 I(S) 物理工学 II(S)	応用数学 II A(S) 応用数学 II B(S) 物理学 II A(S) 物理学 II B(S) 情報処理 II(S) 物理工学 I(S) 物理工学 II(S)	応用数学 II A(S) 応用数学 II B(S) 物理学 II A(S) 物理学 II B(S) 情報処理 II(S) 物理工学 I(S) 物理工学 II(S)	応用数学 II A(S) 応用数学 II B(S) 物理学 II A(S) 物理学 II B(S) 情報処理 II(S) 物理工学 I(S) 物理工学 II(S)	応用数学 II A(S) 応用数学 II B(S) 物理学 II A(S) 物理学 II B(S) 情報処理 II(S) 物理工学 I(S) 物理工学 II(S)	応用数学 II A(S) 応用数学 II B(S) 物理学 II A(S) 物理学 II B(S) 情報処理 II(S) 物理工学 I(S) 物理工学 II(S)	応用数学 II A(S) 応用数学 II B(S) 物理学 II A(S) 物理学 II B(S) 情報処理 II(S) 物理工学 I(S) 物理工学 II(S)	応用数学 II A(S) 応用数学 II B(S) 物理学 II A(S) 物理学 II B(S) 情報処理 II(S) 物理工学 I(S) 物理工学 II(S)	応用数学 II A(S) 応用数学 II B(S) 物理学 II A(S) 物理学 II B(S) 情報処理 II(S) 物理工学 I(S) 物理工学 II(S)	応用数学 II A(S) 応用数学 II B(S) 物理学 II A(S) 物理学 II B(S) 情報処理 II(S) 物理工学 I(S) 物理工学 II(S)	
(D)	工学の専門知識とものづくりのスキルを備え、情報技術を駆使できる技術者の育成	学習・教育到達目標(D) (学科) 1. 専門知識とものづくりのスキルを備え、情報技術を駆使できる技術者の育成 2. 基礎能力の育成 3. 問題発見・解決力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「技術者が分業を通じて果たすべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 I	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 II	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 III	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 IV	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 V	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 VI	建築コンクリート工学 A(S) 水理学 I 水理学 II(S) 水環境(S) 地盤工学 I A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 I 地盤工学 II	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	
(E)	多面的思考力と計画力、課題の解決と技術の開発を育成できる技術者の育成	学習・教育到達目標(E) (学科) 1. 多面的思考力と計画力、課題の解決と技術の開発を育成できる技術者の育成 2. 基礎能力の育成 3. 問題発見・解決力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「技術者が分業を通じて果たすべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 I	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 II	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 III	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 IV	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 V	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 VI	建築コンクリート工学 A(S) 水理学 I 水理学 II(S) 水環境(S) 地盤工学 I A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 I 地盤工学 II	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	
(F)	地域の産業と社会に連携し、時代の要請に応えられる実践力のある技術者の育成	学習・教育到達目標(F) (学科) 1. 地域の産業と社会に連携し、時代の要請に応えられる実践力のある技術者の育成 2. 基礎能力の育成 3. 問題発見・解決力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「技術者が分業を通じて果たすべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 I	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 II	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 III	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 IV	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 V	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 VI	建築コンクリート工学 A(S) 水理学 I 水理学 II(S) 水環境(S) 地盤工学 I A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 I 地盤工学 II	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	
(G)	自発的学習能力を身につけ、継続的に自己更新できる技術者の育成	学習・教育到達目標(G) (学科) 1. 自発的学習能力を身につけ、継続的に自己更新できる技術者の育成 2. 基礎能力の育成 3. 問題発見・解決力、及び未来志向で主体的に学び続ける人間力など「技術者が分業を通じて果たすべき基礎的能力」を育成する授業を配置します。	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 I	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 II	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 III	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 IV	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 V	環境都市基礎論 環境都市工学基礎論 VI	建築コンクリート工学 A(S) 水理学 I 水理学 II(S) 水環境(S) 地盤工学 I A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 I 地盤工学 II	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	建築コンクリート工学 B(S) 水理学 II A(S) 水理学 II B(S) 水環境(S) 地盤工学 II A(S) 地盤工学 II B(S) 地盤工学 II 地盤工学 III	

カリキュラムポリシー
 環境都市工学科は、ディプロマポリシー(学位授与の方針)に掲げた知識・技能などを育成するために、低学年では一般科目を中心に工学基礎科目を織り交ぜ、学年が上がるにつれ専門科目を多く学ぶ「(きび)型」の教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。
 専攻科
 環境都市工学専攻は、ディプロマポリシー(学位授与の方針)に掲げた知識・技能などを高め、学士(工学)の学位が取得可能な教育課程を編成します。そして、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム「技術者が備えるべき能力」を育成する講義、演習、実験、実習又は実技を適切に組み合わせた授業を行います。その評価は、学修成果の到達目標に対する達成度により行います。

講義: 31.0 単位
 演習: 3.0 単位
 実験実習: 3.0 単位

講義: 28.0 単位
 演習: 4.0 単位
 実験実習: 3.0 単位

講義: 30.0 単位
 演習: 1.0 単位
 実験実習: 5.0 単位

講義: 35.0 単位
 演習: 0.0 単位
 実験実習: 8.0 単位

講義: 43.0 単位
 演習: 0.0 単位
 実験実習: 25.0 単位

講義: 44.0 単位
 演習: 2.0 単位
 実験実習: 20.0 単位

講義: 14.0 単位
 演習: 4.0 単位
 実験実習: 10.0 単位

科目名 = 講義
 科目名 = 演習
 科目名 = 実験・実習

専攻科の科目において、◎印の科目は、目標を達成するために「主体的」に履修する科目である。